



新居町駅西公園

浜名街道
水のまん中の道がまつづく
山頭火

1



新居関所

木戸しまる音や
あら井の夕千鳥
太祇

2



本果寺

寄らですぐ
月の湖辺の友の僧
林火

3



新居諏訪神社

湖にのぞむ社の夏祭
ともすほかげも
すしかりけり
新居諏訪社七月祭
重胤

4



三十ヶ谷の森

雁聞や
あら井の関の侍衆
蕪村

5



蔵法寺

治まりし世に引かへて
ゆるはぬは
小田のかかしの弓にこそあれ
須賀留

15



蔵法寺

大松詠
いにしへに
ありきあらずハ知らねども
あてかた人のうなひ松かせ
遺愛松根勿斧突
久内和光

16



清源院

年歴ぬる
花に花咲く法の庭
東峨

17



本興寺

水の音
ただにひとつぞきこえける
そのほかは
なにも申すことなし
白秋

18



愛宕山

都よりあづまへかへり下りて後
前大僧正慈鎮のもとへよみて
つかわしける歌の中に
かへる波
君にとのみぞことづてし
濱名の橋の夕ぐれの空
前右大将頼朝

6



蔵法寺

夜梅
香をとめて問ふ人もがな
おぼろ夜の
月ももれ来る窓の梅が枝
長坂秋名

14



本興寺

花の寺静かな人出中に歩す
立子

19



親水公園

橋辺霞
影たえて
したゆく水もかすみけり
はまなの橋の春の夕暮
定家

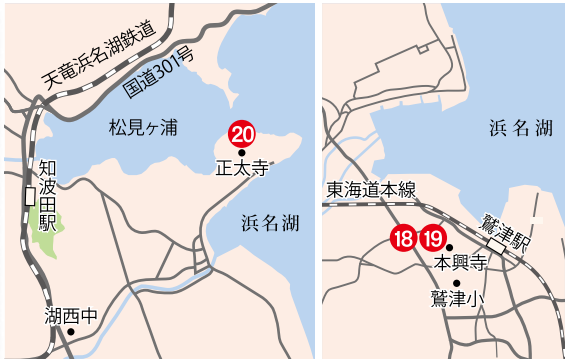
7



蔵法寺

花下言志
うつらうつら
身をしおもへば桜花
咲る皇國に生れ相にけり
月前遠情
天の下
こころのゆかぬ隈もれし
月見宵の吾や久延昆古
甕磨

13



湖西市 ふるさとの 文学散歩道



正太寺

宇津山へ椿敷なす正太寺
俳一佳

20



新居図書館

冬のころ
遠きところをおもふ歌を
人々よみ侍るに
ふみわけて
今もみてしか遠つあふみ
濱名のはしにふれる初ゆき
満ふち

8



恵比寿神社

吹わたる遠つ入江のあさかぜに
波間行かふ海士小舟かな
有飛

12



旧東海道沿い

風わたる濱名の橋の夕しほに
さされてのぼるあまの釣舟
わがためや浪もたかしの浜ならん
袖の湊の浪はやすまで
前大納言為家
阿佛尼

11

新居浜をうたう 清水みのる
ゆるやかに弧を描いて
新居浜はゆったりと錨瀬を抱く
浜名湖の青い裾がかりから
とり残された砂浜
満ち汐はそれに磨きをかける
汐通しを釣り場に急ぐ小舟は
さわやかな 朝の陽ざしを運び
今切口の夕映は
その美しい色彩りを見せてくれる
松林近く ことしも
月見草のこぼれ咲く季節
顔なじみが来る
この浜を愛する人が訪れる
行きずりの人も足をとめる
私は防波堤に立って
新居浜をふりかえる
塗りかえられてゆく地図の中で
もう一度ふりかえる



新居弁天

10



大元屋敷跡

旅衣あら井の関を越かねて
袖によるなみ
身をうらみつゝ 通女

9